

# 令和 2（2020）年 6 月市長定例記者会見の概要と質疑応答

令和 2（2020）年 6 月 3 日（水曜日）  
午前 11 時～午後 0 時 1 分  
柏崎市役所大会議室

## 1 発表事項

### (1) 6 月は自宅でえんま市気分—動画でえんま市を紹介

(主管：元気発信課)

毎年 6 月 14 日から 16 日は、約 2 キロにわたって露天が約 500 店舗展開するえんま市が開催されます。いつも 10 数万人の人出ですが、今年は今のところ秋に延期としています。今回、昭和や平成の時代のえんま市のどんなものだったのかを YouTube で配信します。今年のえんま市が秋に開催されることを期待していただきながら、ご自宅で昭和の時代と平成の時代のえんま市の様子を楽しんでいただきたいと思います。

### (2) 「新しい生活様式」は柏崎で—移住定住を語るハイブリッド型座談会を開催

(主管：元気発信課)

今朝のテレビで、都会のラッシュアワーで電車で揺られて通勤されている方々が、新型コロナウイルス感染症をきっかけに地方への移住を考え始めたという方が多くなってきたという報道がありました。私たちも今回の事態を一つのきっかけとさせていただき、あらためて柏崎に戻ってこよう、もしくは柏崎に住んでみようという方々が関心を寄せてくれることを考えました。20 代から 30 代前半の方々を中心に U・I ターンされた 4 人と私とファシリテーターの水戸部さんと一緒に、柏崎の魅力、柏崎に戻ってきた理由、柏崎の生活での良いところや足りないところなどを率直に意見交換させていただきながら、その模様をネットで生中継します。首都圏在住者の方々からもリモートで参加していただきたいと思います。今回参加される阿部さんは、阿部酒造の責任者で、造られているお酒は非常に人気を集めています。せっかくなので、阿部さんが造られたお酒を飲みながら、楽しい時間を作らせていただきたいと思います。

### (3) 柏崎発！新しい海の楽しみ方をご提案

(主管：商業観光課)

柏崎はこれから海のシーズンに入りますので、柏崎の海の楽しみ方を提案させていただきます

ます。

一つ目は海水浴です。県内で海水浴客が一番多いのは柏崎で、その中でも石地が最も多く、遠浅の海水浴場としてファミリーの方々に楽しんでいただいています。石地の海水浴場を含めて、市内には42キロの海岸線にそれぞれ特徴を持った海水浴場が15カ所もあります。安全に海水浴を楽しんでいただけるようライフセービングの方々を中心に、柏崎市の消防職員からもお手伝いをいただきながら、従来通り海水浴場を開設させていただきたいと思っています。海開きは7月5日に夕海で行う予定です。

二つ目は、バーベキューです。これまで海水浴場でバーベキューは禁止させていただきましたが、今年新たにみなとまち海浜公園にバーベキューエリアを開設します。非常に広い空間になっていますので、このバーベキューエリアも柏崎の新たな魅力として楽しんでいただきたいと思います。

三つ目は、柏崎港にある観光交流センター夕海です。柏崎観光協会の方々のお力添えで7月にリニューアルオープンします。番神海水浴場の近くにあり、ドライブやサイクリングの休憩にもお立ち寄りいただけます。お土産や、柏崎で獲れた魚や野菜なども購入できるスペースとして、港ですが道の駅のような新たな位置付けを期待しています。観光客だけでなく、たくさんの方々からお越しいただきたいと思います。

四つ目は、番神自然水族館で、これは3年目の開設になります。大きな水族館も魅力的ですが、柏崎は箱物の水族館を作るのではなく、元々ある自然を利用して、子どもたちが魚を追いかけて回したり、カニを捕まえたり、触って見ることができる水族館です。7月18日から8月16日までの土曜日、日曜日、祝日で開催します。

五つ目は、ドライブとサイクリングです。鷗が鼻から望む米山、遠浅の海に沈む大きな石地の夕日、笠島地内にある牛ヶ首の層内褶曲などの柏崎を代表する風景を、ドライブやサイクリングしながらお楽しみいただければと思います。

次に、マリンスポーツです。天気のいい日はSUP、シーカヤック、ウインドサーフィンなどでもお楽しみいただきたいと思います。

#### **(4) コツコツ貯筋体操センターにパワーリハビリ会場を開設**

(主管：介護高齢課)

柏崎ショッピングモールフォンジェ内のコツコツ貯筋体操センターが開設から早1年経過しますが、非常に好評をいただいております。残念ながら新型コロナウイルス感染症の影響で現在は閉鎖していますが、6月29日から再開し、併せてパワーリハビリ会場を開設させて

いただきます。これは、高齢者を対象にトレーニングマシンを使っていただき、介護予防を兼ねた健康づくりをしていただきたいという趣旨のスペースです。月曜日から金曜日の午前10時から午後5時まで開設しています。高齢者向けのトレーニング機器だけでなく、普通のトレーニングジムと同じようなマシンも用意しており、一般の方々にも開放します。高齢者には、指導スタッフが付く10回コースでトレーニング機器の使い方や運動の方法などを説明します。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、消毒や検温などの感染予防対策も講じた上で実施します。

### **(5) 消費喚起、雇用維持に向けた新たな経済対策を検討**

(主管：商業観光課、ものづくり振興課、市民課)

新型コロナウイルス感染症のための新たな経済対策を検討しています。検討としているのは、議会の議決を経ていないためですが、先般の市議会会派代表者会議でも、方向性は示させていただきました。

新たな経済対策の一つは消費の喚起で、スーパープレミアムはなまるクーポンというものを考えています。これは、平均して前年比マイナス60%から70%落ち込んでいる飲食、小売、物販の売り上げを少しでも増やしていただくために実施する事業です。実施時期は7月から来年の1月までです。

二つ目は雇用の維持に関して、まだ議案としてできていませんが、3点あります。1点目は、ものづくり産業雇用維持奨励金です。これは、国の制度である雇用調整助成金の活用により雇用を維持する製造事業者に対し、100万円を上限として、雇用調整助成金の10分の1を上乗せ交付させていただくものです。補正予算の金額は1億5千万ほどを予定しています。

2点目は、雇用調整助成金つなぎ資金利子補給金です。雇用調整助成金は申請して支給されるまで約1カ月かかります。しかし、雇用調整を始めている企業はすでに休業の手当などを出していますので、国の雇用調整助成金が支給されるまでタイムラグが発生します。そこで、その間、柏崎信用金庫から借入れをした部分は、市が利子補給をさせていただきます。つまり、企業から見れば、利子を市に負担してもらって無料で柏崎信用金庫からお金を借りることができるという制度です。他市では雇用調整助成金の申請額の80%のところがありましたが、私どもは3カ月を限度として100%の金額を利子補給します。柏崎信用金庫とは、現在調整中です。

3点目は、ものづくり産業等事業構造強化促進補助金です。これは簡単に申し上げると、国の製造業に対する補助金の上乗せをするというものです。具体的には、新型コロナウイルス

ス感染症の影響を受けながらも雇用を維持し、国の小規模事業者持続化補助金、ものづくり補助金、IT 導入補助金のコロナ特別枠の補助制度を使っていただき、その補助金で賄いきれなかった部分の半分を市が補助するというものです。

市独自の経済対策である小規模事業者経営支援補助金は、すでに1億2、3千万円は支給されていると思います。事業者の方々からは、素早い支給でありがたいという声も頂戴しています。事業継続支援補助金は始まったばかりで件数は多くありませんが、支給金額はかなりの金額になっています。元気発信応援プロジェクトのファンクラブとの連携による受注状況は、約600セットお買い求めいただいています。特別定額給付金の交付率は97.8%と、100%に近づいてきました。

## **(6) 災害時の避難行動と「新しい生活様式」を市民の皆さんへ周知します**

(主管：防災・原子力課、健康推進課)

新型コロナウイルス感染症対策をしている中で、自然災害などが起こった時にどうすればいいのか、どのように避難すればいいのかについて、国から考え方が伝えられています。そういった時の避難のポイントなどを市民の皆さんに周知させていただくべくチラシを作らせていただきました。また、「新しい生活様式」について、日常生活でどのようなことに気を付ければいいのかということなどを記載したチラシを作らせていただきました。私たち一人一人が意識をして続けていかなければ、また第2波、第3波の心配もありますので、市民の皆さんにもご理解いただきたいと思います。

## 2 質疑応答

### ◎小規模事業者の状況に関する質問

**記者：現在の小規模事業者経営支援補助金の申請状況から、市内の業者がどんな状況にあると受け止めているか。**

市長：小規模事業者は全業種平均して売り上げが前年比マイナス 60%で、宿泊業に関してはマイナス 75%を超えています。多くの業種から申請をいただき、すでに 1 億 3 千万ほど支給されたと思います。支給を受けた事業者からは、非常に助かったという声を聞いているので、裏を返せば、かなり<sup>ひっばく</sup>逼迫している状況だと思っています。

### ◎じよんのび村やシーユース雷音の再開に関する質問

**記者：まだ再開の見通しが立っていないじよんのび村やシーユース雷音についてはどのように考えているか。**

市長：シーユース雷音は順次再開していきたいと思います。じよんのび村に関しては、新型コロナウイルス感染症以前の問題として、非常に厳しい経営状況ですので、いつから再開できるかは明言できない状況です。まずは民間の方々にしっかり立ち直っていただかなければいけないので、宿泊事業者に対する補助金も創設させていただきました。

**記者：じよんのび村は以前から厳しい状態で、さらに新型コロナウイルス感染症の影響で休業になり、存続にも関わる状況かと思う。市長は高柳にとってじよんのび村は大切な存在で潰すわけにはいかないと言っていたが、その考えに変わりはないか。また、新たに市費を投入した支援などは考えているか。**

市長：いかなる形式であっても、じよんのび村は必ず残すという決意に変わりはありません。新たに市費を投入するかに関しては、今のところはノーです。まずどうしてこのような状況に至っているのかを経営者と共に分析して、厳しい経費などの見直しを行いながら、結果としていかなる体制になっても、必ず残したいと考えています

## ◎新たな経済対策に関する質問

**記者：経済対策の追加補正金額はどれぐらいを予定しているか。また、これまでの経済対策の総計はどれぐらいか。**

市長：経済対策だけでなく、福祉保健部や教育委員会を含めると、一般財源は約7億円になると思います。経済対策の部分は産業振興部長からお願いします。

産業振興部長：現段階で約2億円の追加補正をお願いしたいと考えています。

市長：そうすると、今後上程予定のものもすべて合わせると経済対策の総額は約8億円になります。

**記者：6月の議会で2億円を追加補正するという話だが、これは今日発表したスーパープレミアムはなまるクーポンと新たな補助金を合わせた金額ということでよいか。**

市長：はい。

**記者：スーパープレミアムはなまるクーポン事業の詳細は、いつどんなかたちで発表されるのか。また、ものづくり産業を中心とした雇用の維持に関する3つの補助金の対象となる業種は、製造業に限定されるのか**

市長：スーパープレミアムはなまるクーポンは、はなまるクーポン事業と同じように、500円以上使うと1個スタンプがもらえますので、それをいくつか集めて取扱店に出します。そこから抽選を行い、当選すると参加している事業所のみで使える商品券がもらえます。商品券の総額は、はなまるクーポン事業では50万円ほどでしたが、今回は1千万円の単位です。

ものづくり産業雇用維持奨励金は、製造業のみが対象です。雇用調整助成金つなぎ資金利子補給金とものづくり産業等事業構造強化促進補助金は、全業種が対象です。

**記者：スーパープレミアムはなまるクーポンは総額1千万円の単位ということだが、商品券の総額は1千万円台なのか、数千万円なのか。**

市長：1千万円台の前半と考えていただきたいと思います。2回に分けてスーパープレミアムはなまるクーポン事業を行います。2回目は100万円台の後半とお考えください。

**記者：1人いくら程度の商品券が当たるのか。**

市長：一番大きいものは2万円分です。多くの方々に当たる事業にさせていただくつもりです。

### ◎災害時の避難行動に関する質問

**記者：災害時の避難行動について、避難所の3密対策で県が各市町村にレイアウト変更や避難所の追加を検討するようにお願いしていると思うが、柏崎市の今後の対応として考えていることはあるか。**

市長：避難所の代表的なものは学校の体育館で、今は体育館のみが避難所として認められています。市の教育委員会、それぞれの学校長、所管官庁である文科省と話をさせていただきながら、教室もいざというときに使えないか、今検討を指示させていただいています。

**記者：柏崎市は原子力災害に備えた避難計画もあると思うが、感染症時の対応として、原子力災害に備えた避難計画の追加や見直しも考えているか。**

市長：原子力災害に関しては、所管の内閣府から6月に入って、新型コロナウイルス感染症と原子力災害が重なった場合にどのように避難したらよいかという国の考え方が、私たちに伝えられました。その考え方をベースに検討を始めさせていただいたところです。

**記者：内閣府からの考え方というのはオープンにされているのか。**

市長：6月2日から内閣府のホームページに出ています。

**記者：検討中ということだが、いつ頃までに、どのようなかたちで見直すのか。**

市長：正直なかなか難しいところです。具体的な話を申し上げますと、いざという時にはバスでの避難も想定します。昨年も今年も練習はしていますが、そのバスも密を避けるとなると、台数も運転手もさらに必要になってきます。柏崎市だけでは解決できない課題だと思いますので、首都圏への往来ができるようになったら最初に内閣府や経産省に伺い、現実的にどのように対応すればよいのかという話を聞きたいと考えております。具体的にはこれからですが、非常に難しい課題だと思っています。

### ◎新型コロナウイルス感染症の海水浴場における3密対策、影響に関する質問

**記者：海水浴場を抱えている自治体は3密対策に苦慮しているようだが、柏崎市の海水浴場におけるコロナ対策や3密対策はどういうものを考えているか。また、柏崎にとって海水浴は最大の観光資源だと思うが、コロナの影響がどれくらいあると考えているか。**

市長：柏崎の15の海水浴場はかつて1シーズンに100万人お越しいただいたこともあり、鯨波の海水浴場は、芋の子を洗うようだと表現されたことがあります。しかし、残念ながら近年は海水浴客が減少し、3密と言われるような状況になっていません。浜茶屋の数も半分に減っています。このような状況の中では、従来と同じようにライフセービングの方々などの協力で安全対策を行うのみです。もちろん看板を立てる、ホームページで周知することはしますが、海水浴場に入るために一人一人検温するということは考えていません。

**記者：海水浴にはコロナの影響はないだろうという認識か。**

市長：今後市内で感染者が出る、県内で感染者が多くなる、もしくは首都圏で多くなってまた緊急事態宣言が出されるということになれば、海水浴場を開設しないということもあり得

るかもしれません。今のところ開設する以上、できる限りの安全策は取りますが、検温をするとか、入口で消毒を行うようなことは現実的ではないのでできません。

### ◎緊急事態宣言解除後の市長選への考えに関する質問

**記者： 11月の市長選まであとおよそ5カ月となったが、緊急事態宣言が解除された現在の市長選についての考えはどうか。**

市長：まだ後援会の方々とも具体的な相談はさせていただいていません。また、後援会の方々と、どのタイミングで相談しようか、決断するかしないかということも決めていません。よって、6月議会で出るとか出ないという表明をするつもりはありません。緊急事態宣言は解除されましたが、市内の経済情勢は非常に厳しい状況が続いています。その中で対応策を打っていかねばいけないというのが、今私に課せられた一番の大きな仕事だと思います。いつ目途が付くかわかりませんが、今の段階では、後援会の方々に集まっていただくというプロセスには入っていないということだけ申し上げておきます。